

幻の甲子園出場

コロナ禍の
渾沌たる中

益田東に光り輝く

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R	H	E	
益田東	0	2	0	2	1	0	0	0	0	4	0	5	12	2
益田東	0	2	0	4	0	0	0	0	4	0	10	17	0	

- <1回戦> 益田翔陽 3-9
- <2回戦> 松江東 2-9
- <準々決勝> 矢上 0-1
- <準決勝> 三刀屋 1-4

令和2年度 島根県高等学校夏季野球大会
祝優勝 野球部
七月十八日主八月四日火 益田市民球場・島根県立浜山公園野球場

益田東高等学校きらめき
きらめき



主将3年 白木 絢大 (香芝北)



令和2年度 島根県高等学校夏季野球大会

優勝

「夏の大会がなくなり、130名の野球部員は目の前の目標を失ってしまい、心がバラバラになりました。夏季大会という目標ができて、またみんなの心が1つになりました。何度踏まれても起き上がり、倒された数よりも1回多く立ち上がる事の大切さを、身にしてみて学びました。苦しくて涙し、野球ができる喜びに涙しながらの優勝ただけに、忘れられない高3の感動の夏となりました。すべてのみなさんに感謝です。」



大庭 敏文 監督

「こんな苦しい世の中での生徒の頑張りに、心から感謝しています。『疾風に勁草を知る』が如く、まさに激しい突風の吹きすさぶ中に、生き残った逞しくて強い草のような子どもたちです。入学した時は産まれたばかりの子馬のような生徒だったのが、3年になると真っ向から勝負してくる相手にも、ひるむことなく挑む、勇敢な姿に成長しているのを見るとジーンとなり感無量です。」

「たくましく 小さなステップ 歩みだす ガッツな姿を 歴史に刻め」

文字の頭に「立ち上げれ」という5文字を入れた「折句」として作り、1学期の終業式に全校生徒にエールを送った坂田校長。「できることなら優勝旗が欲しい」と準決勝戦終了後に選手たちに胸の内を告げた。優勝に沸いたこの日、「約束通り果たしてくれてありがとう！」と大喜びで選手たちを誉め称え出迎えた。多くの在校生・職員・地域の方々・保護者が出迎える中、夜空には金星が大きく光り輝いていた。

甲子園大会が史上初の中止となり幻の甲子園とはなったが、苦しさを耐え抜き信念を貫き通し、辛抱強く粘って勝ち取った感動の優勝旗。泣いて忍んだみんなの気持ちはいつかどこかで大輪の花となって開いていく。その時まで熱い思いを「心」という名の袋の中に貯めておこう。いつの日かみなぎる力となり袋の中から突き出す錐(きり)となって現われてくる。人としての真価を現わすのは今からだ。むしろ楽しみだ。青春物語は今ここから始まっていく。ただ1つ忘れてはならないことは、暗い袋の中でひたすら研ぎ磨き努力精進しなければ突き出る錐にはならないということである。



野球をさせてくれてありがとう。

すべての人たちに

感謝!

恩返しは
これからです。



学校で出迎える校長と金星

2020 益田東高校野球選手権大会 7月11日 益田市民球場



始球式



全国各地を集中豪雨が襲い、夜中から朝まで降った雨も、この日は晴れた。県独自の夏季大会の前、益田東選手権(3年生引退引白試合)が開催された。ピッチャーの青木副校長とバッターの坂田校長による始球式でプレイボール。吹奏楽部は顧問の進藤大希が作詞作曲した応援歌8曲も披露。「希望の光求めてひたすら仲間と走り続けて上った甲子園坂〜♪」という「甲子園坂」のテンポのよい曲に合わせて、11名のかわいいダンス部の乙女たちがビシッと手先まで合わせてポンポンを華やかに振って花を添えてくれた。

コロナで失ったものは数あれど、手に入れたものはかけがえない仲間との絆。それをバネにして希望の光を求めて進んでいく。電光掲示板の「野球をさせてくれてありがとう。」「親孝行の1つ目は今日の勝利です。」とその1つ1つに胸を打たれる。関西や九州から前夜出発し、途中で仮眠をとって駆けつけた多数の保護者たち。甲子園の夢が絶たれて、さぞかしみんなの心が折れているだろうと思ったが、みんなの澁刺とした爽やかな姿に、逆に勇気もらったと声援を送っていた。子どもたちの笑顔はしっかりと未来に向かって発信されている。